

第1回富山大学工学部地域コア運営委員会議事録(案)

日 時 平成25年3月1日(金) 14時00分～16時50分

場 所 富山市新産業支援センター 研修室

出席者

学外委員 喜多和彦(YKK株式会社), 末岡宗廣(株式会社アイ・ユー・ケイ),
加藤昌宏(株式会社アライドテック), 北野清之(コマツNTC株式会社),
向山準(三協立山株式会社), 二本松守(株式会社スギノマシン),
内田賀久(立山マシン株式会社), 木村隆仁(テイカ製薬株式会社),
清原宏真(富山県厚生部 代理出席), 高林外広(富山県商工労働部),
布目徑雄(富山信用金庫), 金山健司(株式会社日立国際電気),
浦田信一(株式会社不二越), 小路宣昭(リードケミカル株式会社)

学内委員 石原(委員長), 堀田, 篠原, 中島, 唐, 森, 吉村, 松田, 川口, 高辻

陪席者 宇梶(スーパー連携大学院コンソーシアム), 人見(スーパー連携大学院コンソーシアム), 梶, 野末

【次 第】

1. 委員長挨拶

石原委員長から、富山大学工学部地域コア運営委員会設置にあたり主旨説明及び挨拶があった。

2. 委員紹介

地域コア運営委員会委員から自己紹介があった。

3. 富山大学工学部紹介

学科長から各学科の紹介があった。

4. 概要説明

スーパー連携大学院コンソーシアム 宇梶 統括コーディネーターから、大学間連携共同教育推進事業「産学官協働ネットワークによるイノベーション博士養成と地域再生」について、概要説明があった。

5. 意見交換

石原委員長から、意見交換にあたり、「①各企業で望んでいる人材像、能力について」「②共同研究をベースにして専門のコーディネーターを次年度から配置することとなっているが、どのような活動・アプローチをしていけばよいか」の2点に絞ってご意見を伺いたい旨の提案があり学外委員から以下のとおり意見があった。

① 各企業で望んでいる人材像、能力について

- ・問題解決能力、自ら考える能力を持っている人材が必要である。
- ・解決するために提案できる人材、前向きに何かを構築する姿勢を出せる人材が必要である。

- ・スーパーDr. に期待はするが、大学卒業者が日本の将来を牽引するのであり、諸外国に負けない生き生きとした人材と開発業務を行いたい。
- ・大学院2年間の共同研究での体験は大きい。共同研究でのネットワークが社会に出た際に活用できる。
- ・大手会社や外資系会社との共同開発には、Ph. d. であることは重要であり、学歴の高い人材を育ててほしい。
- ・Dr. は専門性が高いが、対中小企業の場合、単に話すだけではなく出口と課題を見据えて相手に合わせてわかりやすい言葉が使えるプレゼンテーション能力を持った人材が必要。
- ・コミュニケーション能力の高い人材が必要。
- ・中小企業では、博士学生を長期に抱え込むことは難しい。総合的な開発マネジメント能力・技術能力が必要。

② 共同研究をベースにして専門のコーディネーターを次年度から配置することとなっているが、どのような活動・アプローチをしていけばよいか

- ・学生を共同研究として送り込むのではなく、教員が自ら企業に割り込んで話すことが重要である。
- ・共同研究の初期においてはなかなか進まないことがあるが、続けて話すことで双方のニーズ・シーズが分かり合える。
- ・医工連携のプロジェクト研究に企業を引っ張り込んでほしい。
- ・富山大学は幅広い人材がある大学であり、他学部も活用しながらコンソーシアムでの位置づけを高めていただきたい。
- ・企業のニーズを大学に繋げるため、研究室の見学会を増やすことや、コーディネーターに企業と大学を頻繁に取り持っていただきたい。
- ・大学から企業に来てプレゼンテーションを行ってほしい。

委員長から、意見を踏まえて、今後大学として社会が望む人材の育成及び産官との共同研究に取り組んでいくことの確認があった。